



第1地域 ロータリー財団地域コーディネーター補佐 新保 清久（新潟万代 RC）

第 1 地域ロータリー財団コーディネーター補佐の新保清久（第2560地区・新潟万代 RC）です。新井和雄 RRFC の補佐として職務を務めて半年過ぎましたが、地域リーダー会議やロータリー財団の委員長会議、ロータリー研究会、ロータリー財団地域セミナー等に参加して最新の情報を学んでまいりました。あらためてロータリーの発展には、ロータリー財団の拡充が欠かせないことを確認しました。

さて、年度初めに寄付金について新井 RRFC から会員に寄付の目標達成の願いをするよりも、まずはロータリー財団のインパクトを伝えるように指示がありました。地区補助金やグローバル補助金を活用して地域や世界で実施するロータリーの奉仕活動は、寄付してくれた「あなたのおかげです」と会員にサンキューレターなどで感謝の意を表する活動を地区、クラブで広めるようにと指示を受けました。



近々に担当する4地区のロータリー財団委員長さんと会議を開催して、各地区のロータリー財団セミナーなどで寄付者にもっと感謝が伝わる取り組みと寄付金ゼロクラブゼロや寄付状況の確認等々情報交換をしたいと思います。併せて2013 年度から始まりました世界のポール・ハリス・ソサエティ（以下 PHS）の会員数は、会員全体の約2%にもかかわらず、年次寄付の 22%、恒久基金を含めた財団寄付全体の 20%を占めていることから PHS 会員の拡大に注力することやまた恒久基金の前年度の運用益が 12%であり死んだ後でも財政的に社会貢献できる恒久基金への寄付を促すこと、DDF（地区財団活動資金）の繰越金は、地区の恒久基金として設立可能であること等も周知していきたいと思えます。

小生は、今から30数年前にロータリークラブに入会した際に先輩からロータリー財団は、毎年100ドルを寄付すればよいと教えられたくらい理解でしたが、図らずもガバナーになり、その後、地区ロータリー財団委員長に就任しまして、各クラブにもっと分かりやすく、身近なロータリー財団を目指して、委員会の人事や地区補助金の支給基準を見直しました。その効果は、地区補助金の申請件数が一挙に 3 倍になり、現在も約 70%以上のクラブが地区補助金やグローバル補助金を申請して奉仕活動に活用しています。

また前年度に第 2560 地区では、地区補助金の申請・報告を電子システム化して申請フォーマットに記載することで補助金委員会ははじめ関係部署の負担を減らすことができました。情報の共有化と入力ミス、添付漏れの自動チェックにより経験のない会員でも正確に申請書・報告書の作成が可能となり作業時間が削減されて大いに効果を発揮しています。最後になりますが、時代に追いつき適応しようとしているロータリーを支えるロータリー財団の理解者、協力者をもっと増やすために様々な仕方があると思いますので関係各位のご教授をいただき任務を務めて参りたいと思いますので宜しくお願い申し上げます。